研究機関名:旭川医科大学

	シェルントファルア フ 田 半) 如明りが シェ ト フ 如明り かんり 半ちり は かし 〕	
HHX L. L.I	における遺伝子異常と細胞診による細胞形態学的特徴と	
の関連性		
研究期間 倫理委員会承	認日 ~ 2024年 12月 31日	
研究の対象 2014年1月	1日 ~ 2024年12月31日に当院で呼吸器細胞診(気	
管支鏡検査や	喀痰による細胞診)が行われた方	
利用する試料・情 ☑診療情報	詳細:年齢、性別、既往歴・併存疾患、喫煙歴、家族歴、	
報の種類 腫瘍マーカー	などの検査所見、画像所見、病理学的診断内容、遺伝子	
検査結果等)		
※ 診療情報	は診療録、手術記録、病理診断報告書の情報を使用します	
☑手術、検査	等で採取した組織(肺の病理診断の過程で作製される病	
理組織標本、	細胞診標本)	
□血液		
□その他()	
試料・情報の管理 旭川医科大学	学長 西川 祐司	
について責任を		
有する者		
外部への試料・情 □自施設のみ	で利用 ()	
報提供	研究グループ内	
弘前大学保領	弘前大学保健学研究科(施設責任者:渡邉 純教授)には、直ちに個人を	
識別できない	状態に加工した画像(画像名、症例番号なども匿名化した	
画像)のみをき	共有し、研究への助言などの協力を依頼します。共有には	
クラウドシス	テムを利用いたします。	
□その他(提	供先:) (提供方法:)	
研究組織 旭川医科大学	病院 病理部 研究代表者:宮川 京大	
【共同研究機	岁 】	
弘前大学 大学	学院 保健学研究科 施設責任者:渡邉 純 教授	
研究の意義、目的 BRAF V60	OE 遺伝子変異や EGFR 遺伝子変異、ALK 融合遺伝子、	
ROS1 融合造	は伝子、METex14 skipping などを有する非小細胞肺癌は、	
それぞれ分子	標的薬による高い治療効果が期待されます。このため、	
出来るだけ早	期に診断し、遺伝子変異に応じた分子標的薬の適応を検	
討する必要が	あります。しかし、設備や人員、費用、検査所要時間な	
どの観点から	、すべての非小細胞肺癌患者に網羅的遺伝子解析を実施	
することは必	ずしも容易ではありません。そこで、細胞診における細	
胞形態から遺	伝子変異の予測が可能となれば、より合理的な遺伝子解	
析の実現につ	ながる可能性が期待されます。	

研究の方法

対象の細胞形態学的特徴を解析いたします。研究代表者、分担者が病理診断に利用した細胞診標本、病理組織標本を顕微鏡下で観察して細胞の形態を分析します。また、顕微鏡下の標本画像の撮影、画像解析用ソフトを使用し、より客観的な評価を実施します。統計学的解析によって細胞診における細胞形態からの遺伝子変異予測モデルを検討します。非小細胞肺癌と他の鑑別疾患(陰性、良性肺腫瘍、他の悪性肺腫瘍)との鑑別指標に関しても、同様に顕微鏡下での観察や標本画像をもとにした解析方法で検討します。なお、良性疾患患者様の遺伝子に関しては解析対象外です。さらに、対象患者さんの年齢、性別、喫煙歴、放射線学的画像所見などの臨床的情報と、病理組織学的情報も遺伝子変異の予測に役立てられるか検討します。

研究成果は学会や学術雑誌で発表いたしますが、その際も患者さん を特定できる個人情報が利用されることはありません。

研究により得られた結果の取り 扱い

本研究から得られた結果は、現時点では確実性に欠けており、研究対象者に知らせるには十分な意義がないため開示いたしません。

お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先: 旭川医科大学病院 病理部 臨床検査技師 宮川 京大(研究代表者) 〒078-8510

旭川市緑が丘東2条1丁目1番1号 電話 0166-69-3392

研究代表者:旭川医科大学病院 病理部 臨床検査技師 宮川 京大